

編集 後記

8 月に入り、猛暑の日々が続いているかと思います。歳のせいか、夏の暑さに少し恐れを抱くようになってきているのは私だけでしょうか。もう少し経てば、暑さも和らぐはずです。公衆衛生雑誌で蓄積してきた知見を実践し、心身の健康を守りたいと思います。

第73巻 8 号では、論壇 1 報、原著 3 報、公衆衛生活動報告 2 報、資料 1 報の合計 7 報が掲載されています。

山下の論壇では、health の歴史的変遷と日本語の成立過程を整理し、「保健」と「健康」の使い方について再検討した論考です。「保健」は健康を実現するための活動・制度・手段の概念、「健康」は目指すべき状態や目的として整理されており、意識的に区別して使用することの重要性を考えさせられました。

野藤らの原著は、住民主体の介護予防活動への参加に対して、自宅から活動拠点までの道路距離が与える影響を検討したコホート研究です。活動拠点までの距離が徒歩圏であることが参加率にとって重要であることが示されています。活動内容に加え、活動拠点の配置や移動支援の検討も、参加率の観点から重要な視点と思われます。

横山らの原著は、地域在住高齢者の健康への関心度とフレイル予防行動（定期的な運動、多様な食品摂取、社会参加活動）との関連を分析した研究です。健康への関心が高い人ほど運動、栄養、社会参加などのフレイル予防行動を実践していることが確認されており、難しいことですが、健康への関心や動機づけの必要性を認識させられます。

小番らの原著は、3～5歳児と保護者を対象に、入浴法と風邪などの感染症罹患との関連を検討した研究です。幼児では39～40℃での入浴が、保護者では体温を高める 4 つの入浴方法で感染症リスクが低くなっていました。適切な入浴習慣が感染予防の一助となる内容で、身近に実践できる内容といえるでしょう。

杉山らの公衆衛生活動報告は、東京都千代田区で実施された低栄養予防を目的とする「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の実践を評価したものです。自治体が保持している KDB データを活用して対象者を抽出し、多職種連携により効果的な施策を検討、実施する内容で、自治体の関係者にとって参考となる好事例の報告かと思えます。

相良・中板の公衆衛生活動報告は、コロナ禍における市町村保健師の保健活動と葛藤を明らかにした質的研究です。分析の結果、6 つの活動カテゴリー（「急増する感染症業務への対応」「保健活動の継続・再開」など）、7 つの葛藤カテゴリー（「必要な支援ができない苛立ち」「保健師として活動できないジレンマ」など）が抽出されました。保健師が抱える葛藤が描かれており、

次号予告（第73巻・第 9 号）

論 壇

就労的活動および就労的活動支援の概念整理と今後の展望：高齢期の社会参加を支える視点から……………村山洋史，他

原 著

ホームレスになること、その後「住まい」を得ることの経験的意味：長期ホームレス経験者を対象とした質的研究……………畔柳奈緒，他

公衆衛生活動報告

育児中の学会参加の課題と支援：第83回日本公衆衛生学会 総会参加者アンケートより

……………増田陸翔，他
被保護者健康管理支援事業の効果的な実施に向けたデータ利活用の取り組み：豊中市福祉事務所の事例からみる40歳未満の被保護者の健康実態……………武本翔子，他

資 料

市役所本庁に設置された喫煙所に関するアンケート結果：全国政令市衛生部局長会西ブロック会議から……………濱田昌範，他
水タバコを提供する 2 店舗における空気汚染の実態調査と健康への懸念……………姜 英，他

平時からの地域との信頼関係の重要性はもちろんのこと、保健師相互の支援体制の必要性も実感させられる報告でした。

桑波田らの資料は、東京都のレジオネラ症集団感染事例について、感染源特定までの疫学調査過程をまとめたものです。積極的疫学調査と遺伝子型別結果から、飲食店利用歴がある21例について、設置されていた電気暖炉を感染源としました。身近な電気暖炉が感染源となりえるという重要な報告であり、日常の機器の衛生管理の重要性を再認識させられる報告でした。

本号では、原稿種別の異なる 7 報が掲載されており、日々の生活、地域、職場でも実践できる報告だったと思います。本誌では、論壇、総説、原著、公衆衛生活動報告、資料と、多様な原稿形式を歓迎しております。あなたの疑問は他の人も疑問に思うことであり、既に収集した調査やデータがあれば、ぜひ原稿にまとめていただければ幸いです。本誌の編集委員会では、掲載されるよう支援的査読・編集を行っておりますので、今後も皆様の多彩な取り組みを投稿していただけるよう、心よりお願い申し上げます。

（古城隆雄）